令和４年度旭川未来会議２０３０若者分野　第３回分野別会議　会議録

１　開催日時　　令和４年１０月１８日（火）　午後６時３０分から午後８時３０分まで

２　開催場所　　フィール旭川　７階　共用会議室１（旭川市１条通８丁目）

３　出席者（参加者）　　秋保里衣，池田七夕梨，佐藤有沙，武田美紀，筒井和騎，沼澤雪菜，山田彩華，吉見季里子
※敬称略，五十音順

４　出席者（市側）　　（運営事務局）
地域振興部　八木次長
地域振興課　佐瀬主幹，南條課長補佐，菊地課長補佐，中村主査，新妻
（統括事務局ほか）
総合政策部広報広聴課広聴係　乙坂主査，吉岡
総合政策部政策調整課　廣岡主査

５　会議の公開・非公開　　公開

６　傍聴者　　２名（報道機関：１名）

７　意見交換等

⑴　報告スライドについて

全体報告会における報告スライドについて，次のとおり，参加者同士による議論を行った。主な内容は次のとおり

（進行役）

・　今日は，全体報告会に向けて，提言の内容をまとめていきたいと考えている。
・　提言については，前回までの会議で出された意見をまとめたものをスライドとしてお示ししているが，これをたたき台として，更に若者らしい視点を取り入れながら，より具体的にまとめていきたいので，率直な意見をいただきたい。

（参加者）

・　まず，デザインと観光は，相性が良いのではないかと思った。例えば，新しいデザインミュージアムをつくるとしたら，動物園などの既にあるスポットと掛け合わせて関連付けるなど，自然を味わうことができる場所でありつつ，デザインを感じることができるという，お得感のある場所をつくるということは，「映える」という点でも良いし，訪れるきっかけとしても良いと思う。
・　道外の方に聞くと，旭山動物園にしか行ったことがないという人が割と多い。そこにプラスアルファが加われば，旭川にもう一度行ってみたいという気持ちにもなるのではないかと思う。
・　また，もう一度行ってみたいということについては，例えば，３回行くと入場料が無料にな

るなどの特典があっても面白いと思う。

（参加者）

・　デザインというものは，そもそも設計することであるので，デザインそのものというよりも，何かを打ち出したいから，そこにデザインを掛け合わせるのかという方向になってくるので，デザイン自体が前に出てくることはないのではないかと思う。

・　そのように考えると，例えば，旭川は木工が強いので，木工のまちということで打ち出していくことをコンセプトとして，その上でどこの部分でデザインが弱いのかということを考えた上で，そこにデザインを生かしていくという考え方になると思う。

（参加者）

・　観光については，「映える」ということが重要であると思う。

（参加者）

・　観光について，自然が豊かだから来てほしいという考え方だけでは，やや無理があると思っている。東北や九州も自然は豊かであるし，北海道全体を見ても自然は豊かである。その中で旭川をピンポイントで選んでもらうためには，デザインの考え方も含め，確固たる何かが必要である。

・　「これがあるから旭川を選ぶ」，「自然を味わうために行くけど，旭川にしかないから行く」という唯一性というものをデザインの力でつくっていけるということなのではないか。

（参加者）

・　例えば，まち全体をＲＰＧのようにして，どこかに行くと何かが起こるというようなことを行っているまちもあると聞いたことがある。

・　デザインの力を生かし，また，ＩＴも組み入れて，今，既にあるスポットを生かしながら，更に豊かな自然を感じることができる。そこに行けば何かを得られるという仕組みをつくることができれば面白いと思う。

（参加者）

・　スポットも散在しているので，ツアーのような形で，巡ることができる方が良い。そのツアーも，例えば季節ごとにルートを変えれば，１年で４回楽しむことができる。

（参加者）

・　例えば，アプリを開けば，動物園のような有名な場所だけではなく，知らなかったスポットが出てきて，それを全て巡ればクリアとなり，ポイントのようなものが得られるなどの仕組みがあっても面白いと思う。

（参加者）

・　ポケモンＧＯもそうだが，何かをコンプリートしていくものはトレンドの一つであると思う。例えば，このお店に行ってこれを食べれば何かを得られるなど，そのようなことをお店の協力を得ながらできると面白い。

（参加者）

・　若者の世代こそ，ＩＴに精通している世代であると思うし，ＳＮＳも普通に，日常的に使っている世代であると思うので，若者分野からの提言については，それらの要素は外せない部分であると思う。

（参加者）

・　観光について，冬のパウダースノーを生かしていくとなると，プラスアルファの部分で，ホ

テルなどと連携して，スキー場に行った後に温泉に行くなど，アフタースキーのプランを充実させることができれば，１日を通して楽しむことができると思う。

・　交通についても，スキー場までのバスが出ているのだが，そのバスを知らずにレンタカーで移動するため，スキー場以外の場所を選んでしまっている人も多いと思う。バスが出ていることをもっと分かりやすくできれば，スキー場ももっと賑わうのではないかと思う。

・　国外，国内からを問わず，自動車以外で移動する観光客をターゲットにして，何かと何かをつなげていくというイメージである。

（参加者）

・　先ほどの話にも出たが，自然が豊かということについては，他のまちにも良いところはたくさんあるので，それだけで旭川が選ばれるということは難しいと思う。

・　どこかに何かを特化させることができれば，ほかより抜きん出たものが見つかると思う。例えば，旭山動物園は，開園当初は普通の動物園であったが，行動展示を行うことにより，大きな盛り上がりを見せることができた。

・　今後，新しいものをつくるとすれば，動物園であれば，更に行動展示を増やしていくことに加え，デザイン性の高いものを取り入れるということが重要になってくると思うし，キャンプやグランピングの施設についても，デザイン性の高いものにして，そこに行ったことをみんなに伝えたくなるような，素敵な「映えの写真」を撮ることができるようなものになれば良い。

・　そのようなことにもＩＴを生かす，ＳＮＳをフル活用していくことが必要であると思うが，市役所だけで情報を発信していくことには限界があると思うので，動物園をはじめまちの至る所で，例えば，インスタグラムで特定のハッシュタグをつけて発信すると料金が割引になるなど，お得感もあり，お客さんに発信してもらうことができれば，もっと広がりを見せることができると思う。

（参加者）

・　旭川はどのようなまちなのかを聞かれたときに打ち出すものとしては，デザインが最もやりやすいのではないか。デザインは，何と掛け合わせても良いという話も出たし，旭川はユネスコデザイン都市ということもある。観光など，すべての要素をデザインに寄り添わせるように考えていけば，まとまりやすく，紹介もしやすいと思う。

・　四季に関していえば，アフターコロナを見据え，観光に着目することは必要だと思うが，やはり，まずは，地元の市民が，旭川の良さに気付く必要性があるのではないか。若者分野でいえば，若者が出て行ってしまうことが懸念されている中，新しいことばかりに目を向けても，結局，地元に人がいなくなってしまっては意味がない。

・　賑わっているからこそ人が寄ってくるのであって，観光だけではなく，地元の人にも目を向ける意味があると思う。

（参加者）

・　デザインについては，幅広いものであるので，しっかりと学ぶことができれば良いと思う。

・　旭川がユネスコデザイン都市に認定されたことを契機に，小中学校の段階で，旭川ならではのデザインを知ることや触れることができる授業や講座があれば良い。大人たちについては，別の方法が必要であると思うが，ユネスコデザイン都市というのは旭川の強みであると思うので，若いうちから，デザインに対する考え方や理解を深めていくことができれば良いと思う。

（参加者）

・　新たなインフルエンサーをつくっていくという考え方はすごく良いことであると思う。あさっぴーなどのキャラクターについては，特徴があれば，勝手に広がっていくものであると思う。ＳＮＳなどを活用し，個人のつながりで広げていくことができる時代であるが，やはりどこかで仕掛けていかないと難しいことでもある。
・　「旭川を出る必要性がない」などと思えることは，若い世代にとっては誇らしいことだと思うので，発信力を強めていくということは，地方都市だからこそ，強化するべきところであると思う。

（参加者）

・　「プロフェッショナル　仕事の流儀」という番組が大好きなのだが，あの番組のように，旭川市内の隠れたすごい人をピックアップし，その人に密着し，インタビューするようなチャンネルをＹｏｕＴｕｂｅにつくることをやってみたいし，もし，実現できれば面白い。
・　面白い上に，自分が出たいという気持ちもある。そのようなものを格好良くつくることができれば，みんなが地元で頑張ろうという原動力にもなるのではないか。

（参加者）

・　ＳＮＳをフル活用する理由は，今の時代は，ＳＮＳでなければ情報を得られないというくらい，みんながそれに頼っているからである。旭川の魅力についても，ＳＮＳを活用してしっかりと発信していかなければ，伝わらない域にまで来ていると思う。
・　地元の人でも，隠れた名店などをＳＮＳで新たに知ることもある。良いものがあふれているまちだと思うので，それを一つのアカウントで発信することができれば，見つけやすいし，知られやすいと思う。

（参加者）

・　そのようなチャンネルが一つあれば，観光に関しても，例えば，この店で食事をして，このアクセスでこのカフェに行って，ここで夕陽を見て，最高の休日を過ごすことができたなどのルートを示すこともできる。そういうものがあれば，もっと外に出たいという気持ちにもなる。

（参加者）

・　ＴｉｋＴｏｋも活用すれば良い。市役所の偉い人があさっぴーと一緒に踊っているところなどをＴｉｋＴｏｋで発信すれば，バズると思う。

（参加者）

・　費用対効果はあると思う。動画を観た人は，市役所は親しみやすいと感じることができるし，壁が破れそうな気がする。

（参加者）

・　子どもたちもＳＮＳに普通に親しんでいる時代であるので，ＳＮＳの使い方を競うコンテストなどを開催することなどにより，子どもたちに目標のようなものができれば，全体的に機運も上がっていくと思う。

（参加者）

・　提言のタイトルについては，全てハッシュタグをつけると良い。

（参加者）

・　現行の市の公式のＹｏｕＴｕｂｅのチャンネルは，堅い感じがするし，色味も地味に感じる。

（参加者）

・　あさっぴーは，数あるゆるキャラの中でもとても可愛いと思うので，あさっぴーを全面的に

押し出した方が良いし，若者には刺さると思う。

（参加者）

・　市のサブチャンネルとして，「あさっぴーちゃんねる」のようなものがあれば良い。

（参加者）

・　そのチャンネルの中で，あさっぴーに川下りなどいろいろなことをさせれば面白い。

（参加者）

・　人がやるよりも，あさっぴーがやることによってインパクトがあるし，観る人も増えると思う。

（参加者）

・　あさっぴーはもっと表に出てきた方が良い。会ったことがないので会いたいし，一緒に写真も撮りたい。

（参加者）

・　買物公園で，毎年，冬に飾られる氷の彫刻はすぐに壊されてしまうが，できる限り，もっと長く飾っておければ良いと思う。

・　世界大会であることもあまり知られていないし，ライトアップの仕方を更に工夫するなど，もっとアピールできる余地はあると思う。何かもったいない感じを受ける。

（参加者）

・　この会議に参加して改めて感じたのだが，若者が集まれることはすごく良いことであると思う。分野が全く違う人たち，何もなければ関わることができなかった人たちと会うことができたし，このような機会は，私だけではなく，もっといろいろな人にも共有したいと思った。

・　そういう場所がありつつ，そこで，若者たちが，今後の旭川について，「こうしていきたい」というような話がもっとできれば良い。若者分野の会議を会議として開くというよりは，そのようなことを気軽に話せる，話しても良い場があれば楽しいと思う。

（参加者）

・　それもＳＮＳを活用し，ハッシュタグを付けて発信したりできれば，家にいてもＳＮＳ上で集えるし，実際に会って話をするよりも多く意見が集まると思う。

（参加者）

・　市長自身も，若者の意見をもっと聞きたいという姿勢であると感じたので，市長をはじめ，行政にかかわっている人たちが，若者のオープンな意見を吸い上げられるような仕組みが必要である。そのような点でも，例えばＳＮＳであれば，ハッシュタグがあれば関連する意見を見ることができる。

（参加者）

・　オンラインの場とオフラインの場が両方あれば良い。実際に会って話すということも必要である。

（参加者）

・　若者たちが友達同士で旭川について話し合ったとしても，その声が行政側に届かなければ意味がない。そのような仕組みづくりも必要である。それがＳＮＳであれば，若者も意見を言いやすいという部分はある。

（参加者）

・　若者たちが集まって多くのことを話すのは，居酒屋などでお酒を飲んでいる席であると思う。

そう考えると，市が居酒屋に協力を求めた上，例えば女子会など，若者が集まる会で，テーマを設定して話し合ってもらい，その様子を撮影させてもらうなどの取組も面白いと思う。

・　可能であれば，協力してもらったグループには，店が代金を割り引き，その店に市が補助を行うなどの工夫をすれば，協力も得られやすいし，かなり素の声が聴けると思う。

（参加者）

・　さらにいえば，その場に行政の職員も参加し，職員も一人の市民として，自由に話をしながらオープンな意見を交換できれば面白い。

（参加者）

・　ときには，市長にも急にその場に突撃してもらい，若者と語り合っても面白い。

（参加者）

・　そのようなことがあれば，若者の興味を惹きつけると思う。また，自分の声が届くと思えば，若者も，いろいろな場面で意見を言ってみようという気持ちになると思う。

（参加者）

・　自分だけが意見を言うのではなく，いろいろな人が意見を言うので，自分も言っていいと思える雰囲気づくりができれば良い。

（参加者）

・　買物公園の飲食店とのコラボもできそうである。屋内に限らず，屋外にも席を設けてやってみても面白い。

（参加者）

・　テレビ番組でよくあるような，街角に御意見箱のようなものを設けてマイクを置き，市の良いところや悪いところなど，市民のいろいろな意見を聴くのも面白い。

・　面白いものがあればＳＮＳで拡散されると思うし，旭川のＰＲにもなると思う。

（参加者）

・　買物公園に大きなスクリーンを設置し，新しくつくる旭川のＹｏｕＴｕｂｅのチャンネルをずっと流しておくというのも面白い。

（参加者）

・　買物公園の在り方も時代に合わせて変えていかなければならないと思う。街頭放送もずっと同じものが流れており，昔の旭川という感じがする。

・　先日，参加したフォーラムにおいて，買物公園に，一部，芝生のゾーンを設けてはどうかという意見が出ていた。私もそのときに気付かされたのだが，そのような新しい意見を取り込んでいくべきではないかと思う。いつまでも同じことを続けるのではなく，せっかく新しい意見が出たのなら，やってみるということである。

・　先ほど，話が出た氷彫刻の世界大会についても，買物公園でやるのであれば，もっとやり方があるのではないか。買物公園にただ物を置いておく，ライトアップするだけではつまらないし，買物公園だからできるということがもっとあると思う。

（参加者）

・　買物公園は長いので，その長さを生かして，滑り台でも良いし，冬にそりで一直線に滑ることができるようにするなど，新たなお祭りをやってみたら良いと思う。

・　今よりももっと面白いことができると思う。買物公園の長さを活用して，年に一度，例えば，多くの人が並び，ギネスの記録を狙うなどのお祭りができれば良い。

（参加者）

・　旭川には有名なお祭りがない。テレビのバラエティ番組が取材に来るようなお祭りがあれば面白い。

（参加者）

・　とても長い綱を使い，買物公園の両側で綱引きをしても面白い。

（参加者）

・　氷の彫刻を使ってバトルをする，動物を解き放つ，象が練り歩く，あさっぴーは買物公園を何秒で走ることができるかなどの企画をＹｏｕＴｕｂｅで行っても面白い。

（参加者）

・　買物公園は，ワクワクするようなツールにしていかなければ，今のままで，現状の形を維持していくことは難しいのではないか。

・　食べマルシェのときのように，人が集まる場所にしていかなければならない。スタルヒン球場のライブにも多くの人が集まったようだが，何かがある場所には人が集まると思う。何か面白いお祭りがあれば，少なくとも，私は見に行きたい。

（参加者）

・　買物公園でスケートボードをしている人たちについては，誰かがいるからそこに集まっているということであり，たまり場のようになっていると思う。

・　それが良いか悪いかでいえば，現状では，悪いことになってしまうと思うが，誰かに会えるからそこに行ってしまっているのであり，スケートボードに限らず，誰かに会えるから行きたいという場所がもっと増えれば良い。

・　スケートパークをつくってもらうことも良いと思うが，その方法のほかには，例えば時間を決めて，一部の時間だけスケートボードを解禁してもらうという方法もあると思う。

（参加者）

・　ＳＮＳが浸透している時代に，人に実際に会って話をするという楽しさであったり，温かさを感じて時間を過ごすことができる場所が必要であると思う。

・　例えば食べるものなどがなくても，ただ，場所があるだけで良いと思うし，場所があれば，旭川についての話もできると思うし，ゆっくりと話をすることができる。そこに行けば，誰かが来るというような場所が，まちなかにあれば良いと思う。

（参加者）

・　買物公園は歩くだけでは広すぎるし，もったいない。例えば，真ん中に芝生のスペースを設けても良い。緑があれば，みんな座るし，若者なども集まると思う。

（参加者）

・　春は桜，秋は紅葉など，樹木が一本の道に並んでいるだけできれいだし，映えるので，そのようなことも買物公園でできれば良い。

（参加者）

・　また，例えば，通りごとに特色付けを行ったり，樹木の色彩を分けても良いと思う。それを行うことによって，一部の通りではスケートボードの利用が可能になるということもできるかもしれない。

（進行役）

・　多くの意見が出たところであるので，得られた意見をまとめ，改めてスライドを作成するこ

ととする。

⑵　発表者について

全体報告会の発表については，スライドごとに発表者を分けることとし，後日，改めて調整を行うこととした。